



ひろしま 市民児協だより

広島市民生委員児童委員協議会
〒730-8586
広島市中区国泰寺町一丁目6-34
(広島市健康福祉局地域共生社会推進課内)
TEL 082-504-2137



広島県警察本部交通部運転免許課長 若林 達美

運転免許証の自主返納について

昨年の広島県内における交通事故死者数は70人で、統計の残る昭和23年以降で過去最少となりましたが、この内、高齢ドライバーによるものの割合は25%を占め、依然として高い水準で推移しており、今後とも高齢ドライバーの増加に伴い、重大事故の増加が懸念されています。

平成31年4月に東京都豊島区東池袋で母子2名が死亡した、高齢ドライバーによるブレーキとアクセルの踏み間違いが原因の交通事故が大きく報道されたことなどにより、運転免許証の自主返納者数が大幅に増加し、昨年は県内で約1万1千人が自主返納されており、自主返納された方へのアンケート結果では、「家族に勧められた」「高齢者による重大事故のニュースを見た」「身体が衰えを感じた」といった理由が多くなっています。

平素より高齢者と接する機会の多い民生委員・児童委員の皆様には、高齢者の方々へ次のことをご案内いただければと思います。

●**運転免許証の自主返納**
運転免許証の自主返納の申請は、本人又は本人の意思に基づき、親族等による代理申請も行うことができ、運転免許証に代わる顔写真入りの身分証として運転経歴証明書を発行することもできます。

●**安全運転相談**
「周りが見えづらくなった」「身体の動きが鈍くなった」「物忘れが多くなった」「運転中にヒヤッとしたことがある」などといったことがあれば、運転免許センターで安全運転相談を受け付けています。相談は安全運転相談専用ダイヤル「#8080（#ハレバレ）」へお電話ください。

●**自主返納された方への各種支援サービス**
運転免許証を自主返納された方へ、自治体やタクシー会社、スーパーなどで様々な支援サービスがあります。最新の情報は、広島県のホームページ「広島県交通安全お助けサイト」をご覧ください。

今後とも、悲惨な交通事故を1件でも減らすため、御協力をお願いいたします。



広島城と桜

(写真提供：西区大芝地区民児協 若林 弘美)



広島県交通安全お助けサイト



安芸区中野東地区民児協 正木 恵美子

ダンスと私

私がダンスを始めたのは、40歳を過ぎた頃でした。突然、主人の急死で魂の抜殻のようになっていた私を見かねた実母が、「あんたも何か自分の好きな事を見つけないさい」と叱咤激励してくれ「私の好きな事？」を考えてみました。独身時代に少しダンスを習っていたので、これだ！と思い早速ダンスを教えてもらえる所を探したら、幸いにも近くの中野公民館でダンス教室がある事を知り入会しました。そこで長年ダンスを続けておられる皆さんの姿を見ると、「すごい！私も早くあの様に踊りたい」と胸をときめかせたものでした。



打ち込める楽しい時間でした。長年、練習を続けてきたかいもあり、2001年第14回全国健康福祉祭広島大会「ねんりんピック広島大会」に参加し優秀賞を頂きました。その後、広島県ダンススポーツ連盟の加盟サークルとなり競技会、サークルマッチ、他県開催のフォーメーション戦、競技会等と活動

してきました。先般、広島市の広報を見て、ダンスのボランティア活動をしたいと思い立ち知人のダンス仲間（声掛けし、2020年10月から、広島市いきいきポイント事業の一環として、サークル「みんなで踊ろうシヤルウイダンス」を立ち上げました。現在ダンス仲間と一緒に講師のボランティアをしています。ダンスは認知症予防効果も高く、医療関係からも評価されています。音楽を聴きながら皆で楽しく身体を動かしましょう。

継続は力なり！
目指せ100歳！

川柳

我が身より ひとの為にと 尽くす日々
訪問の 人より元気を もらいうけ
百歳が 「わしゃ九十九」と 年取らず

安芸区矢野南地区民児協 竹本利郎



編集後記

ウィズコロナの民生委員・児童委員活動とは。訪問活動はマスクをして密にならないよう行っています。マスクの下には笑顔を忘れず、地域の方に寄り添うことを大切に努めております。今年度は改選期、できるだけ続けてくださることを願っております。
(安佐北区 中坊)

活動事例



佐伯区八幡地区民児協 三谷 純子

佐伯区八幡地区の民生委員・児童委員になって11年が経過しました。その間色々なことがありその体験を皆さんに紹介します。

私の担当地域は、田畑であったところを宅地化され、新旧住民の混在した住宅地で、他地域とたがわず高齢者の一人暮らしの方が多い地域です。

一番びっくりしたのは、私の担当地域で70代男性の孤独死があったことです。知人の方が訪問されてご遺体が発見されました。警察の方に民生委員・児童委員の私に親戚や連絡先等を探ねられました。以前訪問した時に聞いて作成していた「命の宝箱さえき」(かかりつけ病院や緊急連絡先等が記載されたもの)の連絡先を警察の方に伝え、連絡を取ってもらいました。連絡先の方は大阪に居住しておられ、翌日には広島に來られました。家を掃除して次の日

には大阪へ帰られました。高齢者の一人住まいの方は、訪問して安否確認をし、親戚等の連絡先を常に現在のものに更新しておくことの必要性を感じました。

次の体験は、佐伯区の私の職場の近くに高齢の女性が立っておられたので、駆け寄って声をかけました。手には墓の花立てと片方には草を握っておられ、靴は片方だけ履いて、片方は裸足でした。女性と腰を掛けて横に座って色々とお話をしました。名前を尋ねると、自分の名前を答えられました。2日前に「はいかい高齢者SOSネットワーク」からメールが届いていたので、名前を確認すると当事者でした。警察へも連絡して来てもらった、「はいかい高齢者SOSネットワーク」に登録されている方だったことを伝えました。無事、家族の元に帰ることができました。後日分かったことですが、3日前の午

後、自宅を出て行方不明になっておられた方で、家族からお礼の電話がありました。「はいかい高齢者SOSネットワーク」の必要性も痛感しました。

先日、知人から相談があり、知人の知り合いの高齢の女性が体調を壊している時は代わって買い物をしているが、今日は知人がぎっくり腰になり買い物に行けないので、知人のご主人が買い物に行ったとのことでした。今後このようなことがあ

るので、何とかしてほしいと相談されました。状況を確認するために、高齢の女性を訪問しました。女性に話を聞くと5日前にコロナワクチンの2度目を接種し、それから調子が悪くなったとのことでした。今後の対応についてその場から地域包括支援センターへ電話をし、相談に乗ってもらいました。買い物の際は、「命の宝箱さえき」に記載してあった甥御さんに電話をして、状況を説明し買い物してもらおうようお願いしました。その後は甥御さんが買い物をしていました。また、地域包括支援センターと



登校時の見守り

甥御さんと話し合って要介護認定の申請をすることになったそうです。知人には今までのお礼と、対応状況を説明しました。児童の登校時の見守りも行っています。学校までの通学路には、町内会の方、老人会の方等が、それぞれの持ち場に立って通学時の見守りをされています。私の所もその持ち場の一つです。月曜日から金曜日まで毎日見守りに立って、通学児童に声掛けを行っています。今後も地域包括支援センターや町内会、民生委員・児童委員の仲間と協力しあって、住民の皆さんから気軽に相談してもらえるよう、つなぎ役になれるよう頑張っていきたいと思っています。

荒神地区民児協の定例会



南区荒神地区民児協 会長 橋本 和子

荒神地区民児協は、12月23日に荒神集会所で区役所1名・大州地域包括2名・大州地域包括の声掛けでカラフルカフェを始めた大学生2名のご臨席のもと、定例会を開催しました。

新型コロナウイルスの脅威で、昨年思うような活動ができませんでした。まだまだ脅威が続く見通しがあるという意見が出ました。私たちの活動は、子どもから高齢者までの見守りをしていくことが任務です。約2年この状態が続いているうちに、65歳以上の方の調査もできていないので、工夫した活動をする必要があります。

声かけについて、それぞれができる方法を考えました。例えば、登校時の見守りは、それぞれの委員の自宅付近でもできます。ごみの収集日に出会った人に、隣近所の高齢者の様子を聞

くこともできます。いきいき百歳体操などにも参加して、声掛けをします。また、町内会の役員の方にも協力をお願いします。

一町内に1人という民生委員が孤独にならないよう、私達はラインのグループや、ショートメールを使ってコミュニケーションを図っています。仕事や家庭の事情で民生委員活動が思うようにできない時には、声を掛け合いながら協力していくと話し合いました。

民生委員が、各々の個性を生かし協力し合うことにより、楽しく明るい民生委員活動を目指します。



伴地区民児協・伴東地区民児協共同活動

「お母さん広場」

安佐南区伴地区民児協 圓山 エリ子

毎月第3火曜日10時頃から小さなお子さんとお母さんが少しずつ集まってきました。ここは下伴集会所です。

20年以上も前、この地区に公園が無かったので、社協の方が地域の世話役や民生委員などと呼ばれて、集会所を子育て中のお母さんたちの「公園」としたのがお母さん広場の始まりです。

毎回6、7人の民生委員が携わり時々福祉委員の手伝いもあります。今は集会所に使用料や冷暖房費が必要となり、2つの民児協で運営費を出し、参加された方から一家族100円いただいています。

集合時間が決まっているわけではないので皆さんバラバラに來られます。受付で名札をつけてもらって思い思いに遊びます。だってここは公園ですから。

ほぼ來られた頃を見はからって、始まりの歌をうたって、子どもたちの名前を呼びます。少しわかる子は手をあげてうれしそうにしま

す。お誕生月の人がいたらハッピーバースデーを歌ってプレゼントです。折り紙のコマや飾りでも祝ってもらえるのは嬉しいことです。

年に1回保健センターから子育て支援アドバイザーが来て、遊びを教えてくださいました。育児の相談にも応じてくださいます。

クリスマスにはサンタさんが來ます。一昨年はコロナ禍でお休みでしたが、昨年はプレゼントを持って來てくれて子どもたちは大喜びでした。

大切に行っていることは、お母さんがホッと子どもと楽しく過ごすことです。一人で子育てしていると誰かと話したくなります。保健師さんの「お母さん広場、皆さん喜んでおられますよ」の言葉に、やがていを感じるようになりました。に、やはり広場は必要なのだと思います。

